**【第268号 紙面案内】**

第2面……………第63回全国研究大会開催校

第5面……………アイデンティティを考える会の答申書

**第63回全国研究大会統一論題解題**

大会実行委員長 海老澤 栄一（神奈川県）

6月17日から19日までの三日間、神奈川県大学の湘南ひらつかキャンパスで全国研究大会が開催されることになりました。ご承知の方も多いことと思いますが、人件費を中心とした費用節減を大命題にして、高度成長期に藤沢、辻堂、茅ヶ崎、平塚、二ノ宮など東海沿線の湘南地区にあった工場群の東南アジア方面への移動が始まりました。その一方でハイテクを中心とした中堅企業が、まだ元気に製造を続けています。こうした斑模様<sup>まだら</sup>が、湘南の現実です。

このような時代を背景として、日本経営教育学会の名称変更という“一大事”とも遭遇することになりました。本学会としては、実践面でも理論面でも一度、原点回帰してみることが大切ではないかと考えました。そこで、関係者とも議論し、“経営の原点”を統一論題としました。

資源調達や環境循環のようなマクロの動向の他に、人的資源であるヒトを中心としたミクロの分野でも社会は大きな問題を抱えています。つまり“ヒトが欲しいのにヒトがいない”“就職したいのに勤めたい会社がない”といったすれ違い現象が日常的に見受けられます。思い切って発想を変え、智慧を出し合い、第三の道を探ることを議論してみませんか。そして企業社会に対して具体的に提言してみませんか。その際、実践に裏づけられた理論がモノをいうことになるのは、言うまでもないことです。

平塚と秦野の中間点にあるキャンパスは、10万坪の敷地のなかに謙虚な装いをした建物がポツン、ポツンと散在しています。その密やかなたたずまいから未来に向けた発信ができるかもしれません。いやできるはずです。会員の皆さまとお会いできることを楽しみにしています。

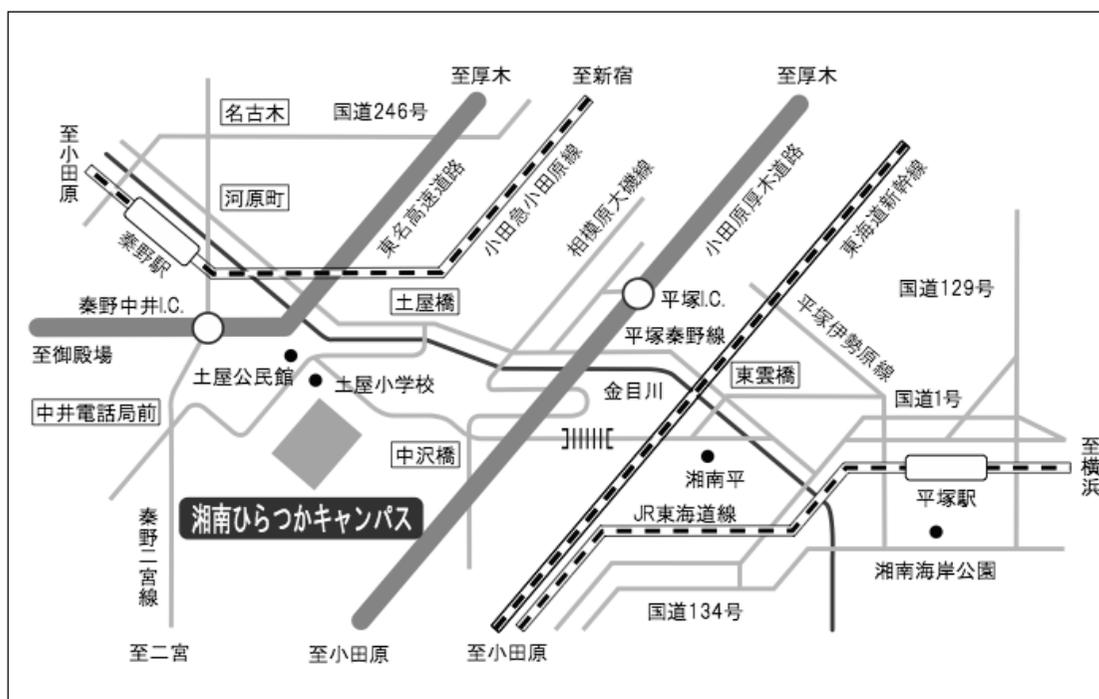
## 開催校案内

平成元年に新しいキャンパスが平塚の奥の土屋地区に開校しました。地元の人たちは、“平塚のチベット”と呼ぶこともあります。キャンパスへのアクセスは2つあります。1つは東海道線・平塚駅下車、バス30分程度です。もう1つは小田急線・秦野駅下車、バス20分程度です。いずれの最寄り駅からも多少の時間を要しますが、豊かな自然に囲まれたキャンパスで、腰を据えて議論をするのも乙なものです。

最大の“売り”は、どこかに忘れてきた“ふるさと”があることです。地元の農家の人たちの「春の田植え」、「秋の稲刈り」が定例になっています。大学は、地域後見人を地で見ている観があります。里地里山もすぐそばにあり、散歩コースには事欠きません。キャンパス歳時記の写真集もできています。

このような自然と共に学習する場は、経営学部だけで実現できるものではありません。湘南ひらつかキャンパスには経営学部の他に理学部があります。彼らは今、蛍の再生と取り組んでいます。“理と経”とのハーモニーが、本学の湘南ひらつかキャンパスを象徴する景観をつくっているといえましょう。多数の会員の皆さまが、悠久の地に足をお運びくださり、心身ともにリフレッシュしてお帰りくださることを期待しております。

### 湘南ひらつかキャンパスへのアクセス



## 常任理事会報告

2011年2月5日(土)午後3時から、山城経営研究所5階会議室にて、日本経営教育学会常任理事会が開催されました。議事内容を以下のとおりご報告いたします。

### 1. 第63回全国研究大会について

6月17日(金)～19日(日)、神奈川大学湘南ひらつかキャンパスにて開催されることが、海老澤栄一大会実行委員長から報告された。また吉村孝司組織委員長から、大会の準備状況について、全国大会実行委員会を編成すること、自由論題が募集中であることが説明され、併せて大会運営のマニュアルを作成したことが報告された。

### 2. 産学交流シンポジウムについて

2011年2月26日、立正大学にて「本物のグローバル人材教育」というテーマで開催されることが報告された。

### 3. アイデンティティを考える会最終報告(案)について

小椋康宏委員長から、「アイデンティティを考える会」最終答申が報告され、松本芳男会長からは、議論の経緯や趣旨についての説明がなされた。

### 4. 今年度活動経過報告と次年度活動計画概要について

各委員会委員長から、今年度の活動経過報告と次年度の活動計画の概要について報告があった。

国際委員会：アメリカ経営学会との交流に関しては継続検討、韓国経営教育学会へは報告者を派遣する予定との報告があった。

機関誌委員会：投稿料、掲載料の徴収、編集状況についての報告があった。

会報委員会：例年どおりの発行を予定しているとの報告があった。

総務委員会：学会の新ホームページは、業者からの納入予定が3月1日になったとの報告があった。

### 5. 会員の入退会について

個人会員6名の入会と同12名の退会が承認された。この承認を経て、2011年2月5日時点で個人会員745名、法人会員5社となった。

### 6. その他

- ・日本経済学会連合からの国際会議派遣補助の募集締切日は、2月末日と6月20日(月)との説明があった。
- ・東洋大学大学院(院生)の清水健太さんが本部幹事として承認された。

## ◇◇中部部会開催のご案内◇◇

日本経営教育学会中部部会では、第43回中部部会開催を、下記のとおり予定いたしております。皆さま奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

●日 時：平成23年3月19日(土) 14:00～17:30

●場 所：東海学園大学栄サテライト 地下鉄名城線「矢場町」駅4番出口より南へ200m  
(徒歩約3分)。若宮大通を渡った角の「久屋南KTビル」(1階がファミリーマート)9F。

●報告プログラム(報告40分、コメント10分、質疑10分)

第1報告：14:00～15:00 梶田 智子氏(広島経済大学)

「労働スタイルの選択に関するCSR論的視点からの一考察」

司会・コメンテーター：工藤 正氏(東海学園大学)

第2報告：15:00～16:00 村橋 剛史氏(朝日大学)

「農商工連携が企業にもたらす効果」

司会・コメンテーター：南川 忠嗣氏(星城大学)

…… 15分休憩 ……

第3報告：16:15～17:15 藤木 善夫氏(愛知産業大学)

「事業承継とイノベーション」

司会・コメンテーター：伊藤 賢次氏(名城大学)

部会報告：17:15～17:30

総合司会 中部部会長・堀田友三郎(東海学園大学)

●参加費等：参加費500円、懇親会費4,500円程度

●お問い合わせ：中部部会長・堀田 友三郎

(0561-36-5555, hottat@tokaigakuen-u.ac.jp)

詳細につきましては、中部部会事務局・藤木善夫(愛知産業大学 岡崎市岡町原山12-5  
TEL:0564-48-4511, yfujiki@asu.ac.jp) までお問い合わせください。

また中部部会では随時報告者を募集しております。ご希望の方も上記藤木宛お知らせください。

## ◇◇関西部会開催のご案内◇◇

●日 時：平成23年5月28日(土) 午後1時30分～午後4時45分

●場 所：関西大学百周年記念会館第3会議室

(阪急千里山線関大前駅、南改札口側の17号門から百周年記念会館前までエスカレーターが設置されておりますので、ご利用ください。)

●報告会終了後には懇親会が予定されております。

●詳細は別途ご案内を申し上げます。

●現在、報告者を募集しております。3名の報告者が揃い次第、募集を締め切らせていただきます。ご希望の方はお早めに、ご氏名、ご所属、ご報告テーマ(仮題でも結構です)を部会幹事の陳恵貞(eb8d101@kansai-u.ac.jp) までお申し出ください。

## 関東部会からのお知らせ

平成23年度の第1回関東部会は5月14日(土)に千葉商科大学(会報第267号参照)で、第2回関東部会は7月23日(土)に成城大学で開催されます。奮ってご参加ください。

関東部会では随時報告者募集を行っております。報告希望者は関東部会長・佐久間信夫(nsakuma@soka.ac.jp)までお知らせください。

## 機関誌委員会からのお知らせとお願い

機関誌委員長 河野 大機 (東洋大学)

次号の締め切りは、8月末です。投稿の際には、表題・本文・小見出し・図表・空白行等を刷り上がりと同じ行取りにして、10.5ポイントで入力し(図表等の中の文字の大きさは別途設定が可)、頁ごとに完成原稿にしてください(余白の設定は規程通り)。英文要約を10頁末に入れてください。11頁目に、邦文要約、連絡場所等を記入してください。以上を厳守した原稿であることをご確認のうえ、投稿くださるようお願いいたします(投稿規程に反した投稿はご遠慮ください)。

## 「アイデンティティを考える会」からの答申書が提出されました

会長 松本 芳男

平成23年2月19日に「アイデンティティを考える会」(委員長 小椋康宏)から下記の答申書が会長に提出されましたので、会員の皆さまにご報告いたします。近く開催される理事会にお諮りする予定です。

### 1. 問題の背景

山城章先生が本学会を設立する際に、本来は「実践経営学会」という名称も検討された。ただ、すでに同じ名称の学会が存在するというので、「日本経営教育学会」という名称に至った。しかし山城章先生の学会設立の趣旨などを拝見すると、「実践経営学」について研究することを目的に本学会を設立したことがわかる。近年、全国研究大会の報告テーマや、学会誌『経営教育研究』に投稿される論文などにおいて、「教育」に対する偏りがある。山城章先生が実践経営学、実・学一体の研究を行うという目的で作られた学会の趣旨と多少ずれている部分がある。以前から同様の指摘はあったが、第61回全国研究大会開催期間中に開催された理事会において、このような背景が学会員の減少や、学会衰退につながりかねないとの意見が出された。松本芳男会長は、このような状況を放置することは、学会の衰退を招くと判断し、本学会の改革を行うため「アイデンティティを考える会」を立ち上げた。

### 2. 本会の概要

#### (1) 構成メンバー

本会は、関東圏の常任理事を中心に構成されている。本会の正式名称は「アイデンティティを考える会」とし、第1回会議において委員長を小椋康宏氏(東洋大学)に決め、松本芳男会長はオブザーバーとして参加した。なお、関東圏ではないが、副会長として櫻井克彦氏(東海学園大学)に参加していただいた。

構成メンバー：小椋康宏（東洋大学）、富田忠義（独協大学）、  
櫻井克彦（東海学園大学）、森川信男（青山学院大学）、  
樋口弘夫（和光大学）、河野大機（東洋大学）、  
杉田あけみ（千葉経済大学短期大学部）、柿崎洋一（東洋大学）

オブザーバー参加：松本芳男（日本大学）

## (2) 本会の活動経過

本会は、昨年の7月から計4回の会議を開催し、学会改革に向けた議論を重ねてきた。第1回会議から第2回会議において、改革に向けた問題点を共有し、議論の方向性を示した。また第3回会議において問題点の克服に向けた改革の方向性を、①学会の名称変更、②新機関誌の刊行、③学会活動の活性化の3点に絞り、第4回会議においてこのたびの答申書の原案となる内容を示し、全会一致で承認を得た。

本会の活動の経過は以下のとおりである。

### ①第1回アイデンティティを考える会

開催日時：平成22年7月24日(土) 11:00～12:30

開催場所：青山学院大学総研ビル10階第17会議室

### ②第2回アイデンティティを考える会

開催日時：平成22年9月14日(火) 15:00～16:30

開催場所：青山学院大学総研ビル10階第18会議室

### ③第3回アイデンティティを考える会

開催日時：2010年11月27日(土) 11:00～12:30

開催場所：日本大学商学部1号館2階 講師室

### ④第4回アイデンティティを考える会

開催日時：2011年1月22日(土) 14:30～15:30

開催場所：東洋大学白山キャンパス2号館16階スカイホール

## 3. 学会名称の変更について

本会は学会名称を「日本経営教育学会」から「日本マネジメント学会」に変更することを提案する。また英文名は、「Nippon Academy of Management」とする。本会としては、これにより本学会の活動における二つの改善が図られると考える。第1に、研究・教育活動の幅が広がることである。全国研究大会において、「日本経営教育学会」という名称に縛られ、統一論題のテーマに「教育」に関連する項目を入れるなど、「教育」という言葉の制約を受けてきた。しかし「日本マネジメント学会」という名称に変更することにより、日本企業や非営利組織のマネジメントなどに合わせた幅広い研究・教育活動が可能になる。

第2に、新規会員の獲得である。戦後、経営学における専門分野が多岐にわたるようになり、この20～30年の間に数多くの学会が乱立するに至った。このような状況で、大学教員の高齢化などにより、会員が減少し、衰退している学会も多く見受けられる。本学会としても、ただ傍観するのではなく、「日本マネジメント学会」と名称変更することにより、幅広い研究分野の研究者や経営実践家の本学会への参加を促すことができる。

#### 4. 機関誌の刊行について

機関誌については、学会名称の変更と同様の理由で、『マネジメント』などの名称のついた新しい学会誌を刊行するべきではないかとの問題提起がなされた。ジャーナル化してまだ4年目である現行の『経営教育研究』は継続する。ただし、現行の機関誌の名称については、日本マネジメント学会誌『経営教育研究』とする。将来、新しい別の学会誌を発刊する場合には、経営実践家も投稿できる経営実践に関わる論文や事例研究を取り入れた学会誌をジャーナルとして創刊する。

#### 5. 学会活動の改革について

学会名称を変更することについては意義のあることであると考えられるが、名称を変更するだけでは不十分である。同時に学会の実践活動についても改革を行わなければならない。具体的には次のような改革が必要である。

- (1) 研究対象の広域化
- (2) 産学交流の進展
- (3) 大会・投稿における経営実践家の積極的参加

(1)については学会名称の変更により、全国研究大会のテーマ設定において日本企業の現代的な課題などをテーマにし、研究対象の広域化を図ることである。また(2)については本学会のオリジナリティとなる部分にもなりうるもので、積極的に取り組む必要がある。仮に名称を「日本マネジメント学会」と変更することになれば「日本経営学会」との差別化を図る必要がある。日本経営学会では経営実践家を十分に受け入れておらず、経営実践家との交流は十分ではなかった。一方、本学会では、山城章先生が早くから経営実践の現場にいる経営者・管理者との良好な関係を築いてこられた。本学会は、この強みを活かして、学会として共同研究できる場を作り、その研究成果を経営実践家向けに公表するなど真の意味での「産学交流」を図ることにより、差別化を図りたい。近年の若い研究者を中心にケーススタディなど、実務家の協力無しに成立しない研究方法が増えている傾向がある。研究者と経営実践家とが一体化できる実・学一体を標榜する学会ということになれば、若い研究者および経営実践家にも参加するメリットを十分に与えることができる。(3)については、現在でも経営実践家を全国研究大会にお招きすることや、産学交流シンポジウムを開催しているが、以前の本学会の産学交流に比べて活動が低調になっている実態がある。これについては、新研究部会を発足させ、学会活動を活発化させたい。

#### 6. 新研究部会の設立について

新研究部会は、(1)マネジメント実践研究部会、(2)日本・国際マネジメント研究部会、(3)マネジメント教育研究部会、の3つの部会からなる。各研究部会の名称は、日本経営教育学会会則の目的に基づいている。また複数の会員によって研究部会を設立する場合には、3つの研究部会の中に位置づけることとする。なお、学会として研究部会での共同研究に対して資金面での支援を行う。これらの学会活動について新しく刷新されるホームページを利用し、地域別部会および研究部会の活性化を図る。

#### 7. 理事の三選禁止の規定について

このたびの学会改革において現行における理事の継続性が必要である。したがって、次期の理事改選については、特例として三選禁止の制限を外すのがよい。

## 国際委員会報告

国際委員長 手塚 公登 (成城大学)

4月中旬に開催予定の韓国経営教育学会(全北大学校, 全州)への派遣報告者は中村久人氏(東洋大学)に決定しました。報告論題は「経営教育におけるリーダーシップ開発論とサバント・リーダーシップ」です。(開催校につきまして前回の会報では全羅大学校となっておりました。訂正し、お詫びいたします)

### 本欄～会員の最新刊著書を紹介します～

◎大西 宏『ガケつぶち就活一発逆転術』

主婦の友社 1,000円+税

会員の皆さまの最新刊著書をご紹介します。  
事務局への献本(1冊)をお願いいたします。

年会費の  
支払いについて

### 郵便自動払込をご利用ください

手続:イ) 郵便口座の取得

ロ) 最寄りの郵便局に出向き『自動払込利用申込書』に記入

払込先加入者名: 日本経営教育学会

払込先口座番号: 00150-7-535064

払込開始月: 平成23年4月から

払込日: 毎年4月10日(再払込日 25日)

なお、領収書が必要な方はEメールでご連絡ください。

ぜひご協力ください。

日本経営教育学会事務局

機関誌投稿論文、日本経営教育学会山城賞および山城賞奨励賞、アメリカ経営学会経営教育部会への派遣報告者、韓国経営教育学会への派遣報告者のお申し込みやお問い合わせは、下記までお願いいたします。

### 日本経営教育学会事務局 (担当: 魚住 良三)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4 (株)山城経営研究所内

TEL 03(3264)2100 FAX 03(3234)9988 E-Mail name@kae-yamashiro.co.jp

### 編集後記

会報第268号(2010年度最終号)をお届けします。2011年度の会報は、新ホームページとの連携も視野に入れていく予定です。会員の皆さまのさらなるご協力をお願い申し上げます。

樋口弘夫・杉田あけみ

発行 日本経営教育学会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4  
株式会社山城経営研究所(担当: 魚住)  
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988  
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp  
URL: http://www.j-keieikyoiku.jp/

印刷 (有)ドットケイズ 〒03-3260-3801  
E-mail: fujiyama2011@mail.goo.ne.jp